

環境活動レポート

平成29年度

(平成29年1月から平成29年12月)

作成 2018年2月8日

東邦化成株式会社

目 次

1. 組織の概要	1
(1) 事業所名及び代表者名	1
(2) 所在地	1
(3) 環境管理責任者氏名・担当者連絡先	1
(4) 法人設立年月日	1
(5) 組織図	1
(6) 事業活動の概要	1
(7) 事業の規模	2
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	2
3. 環境方針	3
4. 環境目標・環境目標の実績	4
5. 環境活動計画と取組実績	5
6. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	6
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	7
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	8

1. 組織の概要等

(1) 事業所名及び代表者名

東邦化成株式会社

代表取締役 磯部 進

(2) 所在地

■本社 東京都台東区日本堤2丁目38番1号 (平成22年認証登録)

■倉庫 東京都台東区日本堤2丁目18番5号 (平成22年認証登録)

(3) 環境管理責任者氏名・担当者連絡先

環境管理責任者 鈴木一弘

担当者 東條賢司

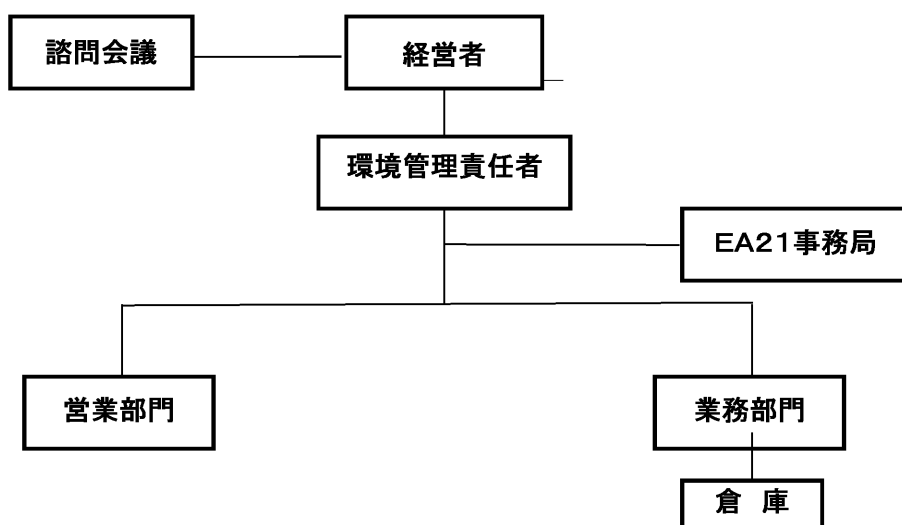
連絡先 電話 03-3872-5111 FAX. 03-3871-5623 e-mail:k.tojo@tohokasei.co.jp

(4) 法人設立年月日

昭和24年1月17日 設立

平成29年11月21日 東邦化成株式会社(現東邦株式会社)より会社分割により設立

(5) 組織図



(6) 事業活動の概要

化学製品(塗料、溶剤、接着剤、消火器、合成樹脂等)
及び関連機器の卸売

本社 ; ・製品の管理、営業

・製品の運搬、梱包、出荷

倉庫 ; ・製品の管理、運搬、梱包、出荷

(7) 事業の規模

事業規模	単位	平成28年度	平成29年度
資本金	万円	1,000	5,000
売上高	千万円	134	139
従業員数	人	21	20
床面積(本社)敷地／延べ床面積	m ²	188.73/407.95	188.73/407.95
床面積(倉庫)敷地／延べ床面積	m ²	89.69/146	89.69/146
車両	台	8	8

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

(1) 対象範囲：全社

(2) 対象組織は「1.(2)所在地」欄に記載

(3) 対象活動は「1.(6)事業活動の概要」欄に記載。

(4) レポートの対象期間及び発行日：表紙に記載

平成29年1月1日より11月20日までは、現「東邦株式会社」の数値に、11月21日より12月31日までの新「東邦化成株式会社」の数値を合算しました。

3. 環境方針

《基本理念》

東邦化成株式会社は、事業活動のあらゆる局面で、環境負荷の継続的な改善を行い、関連する環境法規制・基準及びその他の同意する要求事項を遵守し、地球環境の保全への取組みを進めます。

《スローガン》

私たちは地球にやさしい仕事をします。

《基本方針》

1. 環境改善への継続的取組みと配慮

環境保全に関する次の事項に目標を設定し、取組み結果を見直すなど継続的な環境改善に取り組めます。

①資源・エネルギーの効率的利用によるCO₂排出量の削減

資源・エネルギーの消費状況をチェックし、環境への負荷を常に認識し、車両、空調設備等の効率的な運用により、二酸化炭素の排出量削減に取り組めます。

②廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量を削減します。また、廃棄物の分別を徹底し、再使用、再利用を促進します。

③上水道使用量の削減

元栓と水流を制御し、節約を推進します。

④化学物質貯蔵量の削減

最適在庫を管理し、PRTR該当物質の削減に取り組めます。

⑤グリーン購入に取り組めます。

エコ商品の調査と購入を推進します。

⑥環境配慮型商品の拡販に努めます。

環境に配慮した商品設計、開発を推進し、PRTR非該当物質への代替に取り組めます。

⑦化学物質管理の徹底

法的規制を順守し、管理します。

2. 環境活動の定着と環境情報の公表

全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境保全活動の定着、向上に努めます。また、地域社会との共生を実践するために社会貢献活動に積極的に参加して行きます。また、環境方針と環境関連情報をホームページに公表します。

更新履歴

1998年8月1日 制定
2009年12月16日更新
2010年2月16日 改定
2010年11月10日改訂
2013年3月5日改訂
2014年3月12日改訂

2014年3月12日

東邦化成株式会社

代表取締役

磯部 進

4. 環境目標の設定と実績

目 標		基準年実績	H28.1～H28.12			H29.1～H29.12			H30.1～H30.12
		H20.1～H20.12	目標	実績	評価	目標	実績	評価	目標
二酸化炭素排出量	電力エネルギー量の削減	実績値	48%減	45.8%減	×	48%減	47.1%減	×	48%減
	kWh/年 (Kg-CO2/年)	31,160 (13,243.0)	16,203.2 (8,182.6)	16,894.0 (8,531.82)		16,203.2 (8,182.6)	16,480.0 (8,322.40)		16,203.2 (8,182.6)
	化石燃料(ガソリン)使用量の削減	実績値	18%減	24.9%減	○	25%減	24.9%減	×	25%減
	L/年 (Kg-CO2/年)	25,490.6 (59,180.5)	20,902.3 (48,528.0)	19,132.5 (44,425.7)		19,118.0 (44,392.0)	21,170.5 (49,150.8)		19,118.0 (44,392.0)
	化石燃料(都市ガス)使用量の削減	実績値	97.6%減	97.1%減	×	97.3%減	96.0%減	×	97.3%減
Nm ³ /年 (Kg-CO2/年)	748.0 (1,577.1)	18.0 (38.0)	22.0 (46.4)	20.0 (42.2)		30.0 (63.3)	20.0 (42.2)		
合 計	74,000.61	56,748.6 23.31%削減	53,003.9 28.37%減	○	52,616.8 28.90%削減	57,536.4 22.25%減	×	52,616.8 28.90%削減	
排出量廃棄物	可燃性ゴミの削減	450.0	66.0%減	60.9%減	×	66.0%減	61.4%減	×	63.0%減
	Kg	450.0	153.0	176.0		153.0	173.9		166.5
総排水量	上水の使用量削減	実績値	23.75%減	18.75%減	×	23.75%減	20.63%減	×	21.88%減
	M ³	160.00	122.00	130.00		122.00	127.00		125.00
化学物質貯蔵量	化学物質貯蔵量の削減	2009年度版に移行後設定の為、80.10Kgを基準値とする	37.58%減	66.59%減	○	67.54%減	70.06%減	○	71.29%減
	Kg		50.00	26.76		26.00	23.98		23.00
グリーン購入の推進	グリーン購入品目数	実績値	25	22	×	25	22	×	25
環境配慮型商品の販売	環境配慮商品の定義付けと販売品目数	設定無	100	103	○	105	96	×	100

- *購入電力の排出係数は、平成19年度の東京電力二酸化炭素排出係数:0.425(kg-CO2/kWh)を用いた。
- *平成26年2月25日に電力エネルギー量、上水使用量、環境配慮商品販売量の6年目以降の目標値を上方修正した。
- *平成26年2月25日にガソリン使用量、グリーン購入の6年目以降の目標値を下方修正した。
- *平成27年2月20日に上水使用量、グリーン購入の7年目以降の目標値を下方修正した。
- *平成27年2月20日に電力エネルギー量、ガソリン使用量、都市ガス使用量の7年目以降の目標値を上方修正した。
- *平成27年の購入電力の排出係数は、平成25年度の東京電力二酸化炭素排出係数:0.530(kg-CO2/kWh)を用いた。
- *平成28年以降の購入電力の排出係数は、平成26年度の東京電力二酸化炭素排出係数:0.505(kg-CO2/kWh)を用いた。
- *平成28年1月26日に都市ガス使用量の8年目以降の目標値を下方修正した。
- *平成28年1月26日に化学物質貯蔵量の8年目以降の目標値を上方修正した。
- *平成28年1月26日に環境配慮型商品の販売品目数の8年目以降の目標値を上方修正した。
- *○:目標達成、×:目標未達

5. 環境活動計画と取組実績

環境目標項目		取組項目	責任者	担当者	計画・実績	取組内容(スケジュール):2017年度(2017年1月～2017年12月)
CO2削減	1)電力エネルギー量の削減	①照明管理の徹底	業務部 糸賀あゆみ	業務部 佐藤	計画	①事務所・倉庫不要照明の消灯の徹底 ②冬季上限20℃、夏季上限28℃温度管理の徹底 ③昼休みの休止、終業時のサーバー停止の徹底
		②空調管理の徹底 ③パソコンの未使用時の電力管理の徹底			実績	目標未達 ①②③共、管理の徹底が行われた。 倉庫に浴室を設置し、電気給湯器を増設した為、電気量が増加した。
	2)化石燃料消費量の削減	1)-①エコドライブの励行(燃費向上)	東條	東條	計画	1)-①-1 エコドライブにより、排ガスを抑制する。 1)-①-2 社内便の効率化推進。 2)-①・② 1～3月の省エネ及び消費量の徹底。
	3)都市ガス消費量の削減	2)-①ガス機器の省エネ運転 2)-②床暖房の使用制限			実績	1)-①-1 エコドライブにより、排ガスを抑制する。 ハイブリッド車を1台置き換えた。 1)-①-2 社内便の効率化推進できた。 2)-①ガス機器の省エネ運転が徹底できなかった。 2)-②床暖房は使用しなかった。
廃棄物量の削減	可燃ごみの削減	①コピー用紙の裏紙使用 ③廃棄物量の削減	業務部 糸賀あゆみ	業務部 黒田	計画	①コピー用紙の裏紙使用促進 ②分別の徹底で再利用できるごみ(資源ごみ)を増加する。 ③廃棄物の計測を実施し低重量化
		実績			目標未達 取り組みの継続	
水使用量の削減		①散水時の節水	東條	営業部 下野	計画	①植木の水やりの頻度を調整 ②手洗い・洗い物時の節水
		②水使用量の削減			実績	目標未達 取り組みの継続
化学物質貯蔵量の削減		①貯蔵必須製品の管理 ②直送の検討	東條	東條	計画	①必須在庫製品の調達・保管の適正な管理 ①-2 PRTR対象物の削減 ②営業時・受注時に直送を検討
					実績	目標を大幅に達成 取り組みの継続
グリーン購入の推進		①環境配慮事務用品の購入 ②環境配慮電気・電子製品の購入 ③環境配慮車両の購入 ④環境配慮事業者の取引	業務部 糸賀あゆみ	業務部 高橋真由美	計画	環境に配慮した資材を積極的に取り入れ、事務用品は新規購入からグリーン商品に切り替える。
					実績	目標25品目に対し22品目と目標未達成 再度25品目に挑戦
環境配慮製品・技術・サービスの提供		①環境配慮販売の促進 ②環境配慮開発・設計の促進 ③環境配慮サービスの提供	業務部 糸賀あゆみ	業務部 伊藤真由美	計画	①環境配慮型商品の調査 ②環境配慮型商品の開発 ③環境配慮型商品の販売
					実績	目標105品目に対し96品目と目標未達成 目標を100品目に下方修正する。
化学物質の管理		①項目別管理の徹底	東條	東條	計画	①毒物劇物の販売管理 ②消防法危険物の数量管理 ③毒物劇物、消防法危険物の保管管理
					実績	取り組み管理が行われた 計画を継続

6. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境目標		取り組み項目	取 組		
			結果	評価	次年度の取組内容
1. CO2 の削減	① 電力エ ネルギーの削 減	倉庫不要照明の消灯	継続的な取り組みにより実施できた。	○	継続して取り組む。
		事務所不要照明の消灯	業務部を中心に実施できた。	○	継続して取り組む。
		エアコンの温度管理の徹底	事務所の温度管理は徹底できたが、倉庫側の、エアコンの電力が増加した。	×	室内温度計でチェックし ON/OFF する。
		パソコンの 未使用時の電力削減	昼休みの休止、終業時のサーバー停止ができた。	○	継続して取り組む。
	② ガソリ ン消費 量の削 減	エコドライブの徹底	無駄な走り、アイドリングストップの徹底できなかった。	×	ルートの見直し、忘れ物を無くす。アイドリングストップの徹底。
		社内便の効率化推進	無駄なく実施できなかった。	×	継続して取り組む。
		エコカーの配備	エコカーの配備により削減できた。	○	継続して取り組む。
	③ 都市ガ ス消費 量の削 減	ガス機器の省エネ運転	使用量増加	×	余分な給湯を沸かさない取り組みを継続する。
		床暖房の使用制限	消費量を抑制できた。	○	床暖の使用を止める。
2. 可燃性ゴミ の削減	廃棄物分別の徹底	分別が徹底できた。	○	紙のリサイクルを徹底する。更に分別強化。	
	廃棄物量の削減と計測実施	削減目標達成できず。	×	分別強化に取り組む。	
3. 上水使用量 の削減	散水時の節水	植木の水遣り頻度を調整できた。	○	継続。	
	手洗い時の節水	削減目標達成できず。トイレ使用増。	×	節水強化に取り組む。	
4. 化学物質 貯蔵量の削減	営業時、直送の検討	営業時、直送を検討した	○	直送継続 PRTR 対象品の削減 に取り組む。	
	受注時、直送の検討	受注時、直送を検討した	○		
5. グリーン購入 の推進	購入可能環境配慮商品の調査 環境配慮製品のリスト見直し 環境配慮製品の購入	目標を達成できず。	×	目標を常に意識した発注をする。取組継続。	
6. 環境配慮型商品 の定義付けと販 売	環境配慮型商品の開発 環境配慮型商品の調査 環境配慮型商品の販売	代替品と新商品の開発と販売ができた。	×	日頃から、代替品の開発と販売推進に取り組む。	

評価 ○：予定通り取組実施 ×：取組不十分

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
 環境関連法規への違反・訴訟はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去4年間ありません。

環境関係法規等遵守状況

区分	法規制名	内容	担当部門	遵守状況
廃棄物	東京都台東区条例 廃棄物の処理及び清掃に関する条例	ゴミの分別収集	業務部 営業部	収集日、分別は守られている。
産業廃棄物	廃棄物処理及び清掃に関する法律	契約確認。マニフェスト運用	業務部	発生無し。
PRTR法	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	GHSへ対応したSDS制度に基づき、指定化学物質のSDS(安全データシート)の提供。(平成24年4月に「指定化学物質等の性状及び取扱いに関する情報の提供の方法等を定める省令」改正)	営業部	SDS受領書の運用はできている。 非該当製品の開発。
毒物・劇物	毒物及び劇物取締法	適正な取扱い。 譲渡管理。 紛失盗難防止。	業務部 営業部	鍵の掛け忘れ無し。譲受書の保管はされている。
危険物	消防法	危険物の貯蔵管理。取扱者の講習期限の管理	業務部 営業部	種類別貯蔵量は守られている。
関連物質 化審法	化学物質の審査及製造等の規制に関する法律(化審法)	製造・輸入使用等について必要な規制を行う。	営業部	管理を遵守、代替品への取り組み。
オゾン層 破壊物質	オゾン層保護法	特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律。	営業部	非規制製品開発の取り組み。
安全	労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)	有機溶剤中毒を防止することを目的とした省令。	営業部	適正な使用の指導及び安全な取扱いの遵守。
その他1	環境負荷禁止物質不利用の要望	法規制による使用禁物質や通達により使用廃止を連絡している物質の即時使用禁止。	営業部	不使用証明の提出に協力する。
その他2	RoHS規制	6物質の使用禁止。(水銀、鉛、六価クロム、カドミウム、PBB、PBDE)	営業部	不使用証明の提出に協力する。
その他3	地球温暖化防止対策	地球温暖化係数のある物質の製造使用抑制。	営業部	代替製品開発の取り組み。

代表者による全体の評価と見直し 結果報告書

見直し実施日	2018年2月8日 (<input checked="" type="checkbox"/> 定期見直し <input type="checkbox"/> 臨時見直し)			
見直し対象期間	2017年1月1日 ~ 2017年12月31日			
出席者	代表者、環境管理責任者、事務局			
前回の指示への取組結果	前回の指示事項: 温調はエアコンのみ使用すること。 取組: 倉庫側の節電が不調。オフィス側は、削減できたが、ガソリン使用量の増大により、二酸化炭素排出量は大幅に増加した。			
見直しに必要な情報	①環境関連法規の遵守状況 ②環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況 ③問題点の是正処置及び予防処置の結果 ④外部からの環境に関する苦情等の受付結果 ⑤その他			
代表者による評価 経営的観点	【環境経営システムが有効に機能しているか】(①、③、④、⑤等を踏まえて評価) 環境経営システムは有効に機能している。			
	【環境への取組が適切に実施されているか】(②等を踏まえて評価)			
	目標項目	目標達成状況	活動計画実施状況	目標・活動計画実施状況の評価
	CO2排出量の削減	×	○	目標設定方法: 電気、ガソリン、都市ガスとも継続とした。取組方法: 節電、化石燃料の削減(温度管理、電気とガスの使い分け、ガソリンはエコドライブの徹底)。次年度の方向: 電力、ガソリン、都市ガスとも継続。目標値は継続設定。
	可燃性ゴミ排出量の削減	×	○	目標設定方法: 目標を上方修正したが、未達。取組方法: 分別の徹底。次年度の方向: 継続するが、目標値を下方修正とする。
	上水使用量の削減	×	○	目標設定方法: 目標を上方修正したが、未達。取組方法: 節水の徹底。次年度の方向: 継続するが目標値を下方修正とする。
	化学物質貯蔵量の削減	○	○	目標設定方法: 貯蔵量の平均値とし、大幅に達成できた。取組方法: 継続する。次年度の方向: 品目を削減し、更に削減に取り組む。
グリーン購入の推進	×	○	目標設定方法: 目標値を下方修正したが、未達成。取組方法: 新たな品目を追加できるようにカタログを調査。発注時に再度目標もチェックする。次年度の方向: 目標値を維持。	
環境配慮型商品の定義付けと販売	×	○	目標設定方法: 目標を上方修正して来たが、達成できた。取組方法: 開発及び販売を強化した。次年度の方向: 代替品の開発と販売推進に取り組む。目標値を下方修正とする。	
代表者による見直し 変更の必要性の有無・変更に必要な具体的指示事項	【環境方針】 変更の必要性 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 2009年度版を継続する。			
	【環境目標及び環境活動計画】 変更の必要性 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 CO2排出量は全項目とも未達成。可燃性ゴミ、上水使用量、グリーン購入についても、目標未達であった。二酸化炭素排出量は再度同じ目標を設定したが、ゴミ排出量、総排水量、グリーン購入、環境配慮型商品の販売については、下方修正した。化学物質貯蔵量のみ目標を上げた。			
	【環境経営システム等】 変更の必要性 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 十分に機能していると考える。			
	【総括】(環境活動レポートに転記) 電力・都市ガスとも過去に相当削減して来たが、営業活動の強化からガソリンの使用量が上昇してしまった。電力、ガスについては限界が近付きつつあることを感じるが、再挑戦する。次年度もグリーン購入と環境配慮型商品に力を入れたい。			

注)①定期的(少なくとも毎年1回)に実施すること。登録審査の場合は、臨時に行うこと。

- ②事業年度が終了したら、速やかに終了事業年度(登録審査の場合は登録の運用期間)の見直しをすること。
- ③事業内容の変更や重大な事故・不適合が生じた場合等の時は、臨時の見直しをすること。
- ②事業年度が終了したら、速やかに終了事業年度(登録審査の場合は登録の運用期間)の見直しをすること。
- ③事業内容の変更や重大な事故・不適合が生じた場合等の時は、臨時の見直しをすること。